

令和6年度 鮎貝地区まちづくり座談会における質問・要望事項と回答
令和6年7月30日(火) 午後7:00～8:30 (鮎貝地区コミュニティセンター)

町からのテーマ【第6次白鷹町総合計画後期基本計画の策定について】

《質疑応答》

Q. (資料裏面)自由記載のうち特徴的なものに「若者や女性の考えを取り入れる」という意見がある。町内においても町内長や区長、副区長に女性がいない。町内長の半分は女性になってもらうことを目標にするのはどうか。

A. (企画政策課長) 町内長に関しては町内によって回り番や推薦等、決め方が異なる。町で決めるのではなく、町内で女性の参画を推進していただくなどしていただければと思う。

A. (町長) 町内、区の事情があると思うので、皆さんでお話していただいて決めるのが一番の民主主義だと思う。

Q. 町報で三鷹市と防災協定を結んだというのを見た。山村留学のような形で三鷹市のお子さんを受け入れる等、日常から交流を続けていけば町が元気になり、外からの新たな評価や潜在力に気付けると思う。

A. (町長) 三鷹市は鷹繋がりで付き合いあり、それぞれのイベントに参加してきた。森林環境譲与税を多く持っている港区や世田谷区と林業振興のために交流したい。三鷹市との交流を今後も続けたいが人的交流は大変なこともある。今年は埼玉県桶川市と紅花繋がりです交流あり。神奈川県海老名市とは白鷹町出身者の長井線存続運動で繋がりがある。意見をいただき、人的交流も含めて取り組ませていただきたい。

Q. 手軽に設置できる防犯カメラが出ている。各家庭に防犯カメラを付けた場合、町から補助金を出していただければと思う。

A. (町民課長) 防犯カメラの補助について考えたことがなかった。ドライブレコーダーについては個人で対応いただいております、補助は行っていません。意見を持ち帰り内部で検討させていただきます。

A. (町長) 役場庁舎には防犯カメラが相当あるが、プライバシーの問題もあり令状がなけ

れば見れないようになっている。公共施設にはつけていきたいが、個人がつけるものに関してはプライバシーの観点で課題が生じる可能性もあり、町が積極的に関与するものではないと思う。監視社会を積極的に推進するような形は望ましくない。

Q. 全国で少子高齢化が進んでいる。刑務所のような他市町村が受け入れられないような施設を町に呼び込むのはどうか。雇用が生まれれば若い人が定住し、子どもが生まれる。

A. (町長) 東京都の障がい者施設である陽光学園をつくる際に反対運動が起きた。施設をつくる際にコンセンサスをとることは厳しい。刑務所をつくることは子どもたちの安全を考えると賛成出来ない。働く場として産業団地を作りたいと検討を進めている。町民、議会の皆さんから議論賜り、方向性を出していきたい。

Q. パレス松風が今年度から新体制としてスタートしたが、どのように評価しているか。財政面がどう変わったか、サービス面で町民から敬遠されていないか、今後町で大きな財政負担が発生しないかお聞きしたい。

A. (商工観光課長) ふるさと森林公園についてはこれまでと変わらず指定管理制度で委託している。指定管理として金銭的に委託料を支払いしているのは温浴施設、外回りの管理部分。ホテル、宴会の部分はこれまで同様自主的な営業ということで採算を取っていただいております、町から支払いはしていない。

紅花まつりでは紅ランチの協力を頂き、鮎まつりでも鮎御膳の協力を頂く。介護予防事業の健康づくりサロン、荒砥高校への弁当供給・配達等、今までと遜色ない形で協力を頂いている。

指定管理は10年間の契約。毎年同額の委託料で協定を結んでおり、極端な物価上昇等がなければ変わらない。

4月当初は料金が高くなったという声もあったが、頂いた意見はスタッフの方に伝えている。民間であり、物価上昇をしているため採算がとれるベースで運営いただいている。温浴施設の利用者数(4月～6月)は昨年度よりも増えている状況。宴会については、4月に落ち込んだが6月は昨年度と同じくらいの数字。

新しい体制に町民の皆さんから理解いただいていると感じている。

A. (町長) パレス松風(ふるさと森林公園)が出来てから40年、建物が出来てから38年が経つ。町が有利な制度で建て、運営の一部をお願いしているもの。今後、老朽化対策や新たな魅力創出に向けて財政負担はあるが、少しでも有利な財源を見つけて取り組んでいきたい

い。オートキャンプ場もやっていきたい。硫化水素臭が発生し、木や鉄骨がぼろぼろになるため温浴施設が心配。プラスに転じるよう頑張っていきたい。

Q. 地域おこし協力隊は技術習得をして町の活性化に貢献することを目的にしても、途中で挫折する人もいる。定着率と町としての地域おこし協力隊の課題、問題意識をお聞きしたい。

A. (企画政策課長) 平成 27 年に白鷹町の地域おこし協力隊 1 号の方が着任されてから今年で 10 年。10 数名の方が協力隊として活動した。転出する方もいるが約半数は定着している。

募集をかけても来ていただけないこと、3 年間活動した後に町を離れてしまうことが課題。色々な意見をいただき話し合いながら、住んで働ける場の確保をしていきたい。

Q. 地域おこし協力隊として 3 年間町の活性化に貢献出来ず町を離れる方について、経費の何割かを返納してもらうのはどうか。

A. (企画政策課長) 返納は無く、使った分だけ国から町に来る形になっている。町から持ち出している制度ではなく、定住を強制することは出来ない。

Q. 白鷹大橋の両側の歩道の整備が途中までで進んでいない。交通安全の面からも早く両側開通してほしい。県や国に要望しているようだが、今後の整備スケジュールについて教えて頂きたい。

A. (建設課長) 平成 24 年に工事が始まり、令和 2 年に白鷹大橋が開通した。現在、令和 7 年完了を目途に、県に旧荒砥橋の橋台、橋脚の撤去工事に取り組んでもらっている。その後、歩道の工事等に入るため、事業の完了は令和 9 年を目標に頑張っている。

Q. コミセンの運営の在り方が変わり、来年度から新たな運営組織としてアルカディア財団が加わると聞いた。変えなくてはいけない課題を認識しているとのことだが町から見た課題とは何かお聞きしたい。

また、町とコミセンで運営してきた地域づくり協議会に別の組織が加わることは効率化になるのか。地域独自の事業がしにくくなるのでは？新体制のメリット、デメリットをお聞きしたい。

A. (企画政策課長) コミセンは平成 27 年から地域で担っていただき 10 年目。各地区で人材確保が大変だと聞いている。給与面で処遇改善を行ったがなかなか担い手がない。一括して採用し、人事交流をしてはという意見をいただいた。施設管理や人事に関しては指定管理、事業に関しては町づくり交付金を用意しているので、事業は変えずにやっていただける。伝票処理もまとめて効率化していきたい。効率化だけでなく、人材の確保、よりよい地域づくりが目的。

A. (副町長) 新たな運営組織の選択肢の中の 1 つとしてアルカディア財団を考慮しており、アルカディア財団に決めたわけではない。まとめて共通で出来ることは新しい運営組織に、特色ある地域づくりは各地区にお任せするのがいいと考えている。もう少し詰めた段階で説明させていただきたい。

A. (町長) 持続可能な地域づくりが大切。自分たちの地域は自分たちでやっていけるよう進めてきたもの。強引に進めることはないので、ご理解いただき一緒に進めていきたい。

Q. 4,000 名にアンケートをお願いして回答率が 28.5%。約 70%の未回答者は町づくりに興味がないのでは？せめて 60%位の回答があれば。少なすぎる回答を基に資料を作っても効果がないと思うが意見伺いたい。

A. (企画政策課長) アンケートを実施すると他のものでも回答率は 20%くらいになってしまう。どちらかといえば低い回答率だが回答していただいた貴重な意見を基にいろいろな分析をさせていただきたい。

Q. 謝礼があればアンケートの回答率も上がってくると思う。タダで人を動かすのは間違っていると思う。

A. (町長) 回答率が 2 割でも流れはほとんど変わらない。前は世帯主が回答していたが今は男女年齢別に分けているので、今はほぼ間違いのない意見が反映されていると思う。この他振興審議会からもご意見をいただきながら取り組んでいく。アンケートが来たら協力いただきたい。

Q. アンケートの結果を行政に生かしてほしい。項目が多すぎるので簡潔にしてほしい。全

体の網羅は薄めにして、もっと簡潔な内容にして、その年代で特に今感じていること等が拾えるアンケートだとよい。

A. (企画政策課長) 他からも同じ意見を頂いている。5、10年に1回の計画のため聞きたいことが多くなってしまう。施策に対する評価について前回との比較をみるためにも前回同様のアンケートをさせていただいた。感じていることを書いていただく形も良いと思う。アンケートに限らず座談会や出前講座でも気軽に意見いただきたい。

Q. パレス松風を持続可能にしてほしい。西中学校の古希の同窓会を予定しているが、宿泊を考えたときにパレス松風しかない。町民が使うときは安く、町民割引が利用出来るようにお願いしたい。

A. (町長) パレス松風は条例で定められている町の施設。東日本大震災や大雨の影響で営業できない時があった。平成26年の土砂崩れの後、存続について会議も開き、要望を頂いて今も続けている。町民の負担が少ないことを前提に様々な取組をやらせていただきたい。町民の方に特別なサービスは難しいと思う。7月25日の大雨を受け、被災者は無料にしたいという話あり。条例で宿泊は150円、日帰りは50円の入湯税と決められており、簡単に変えることが出来ない。今後議会に条例改正をはかる予定。ルールの中で声を届けられるよう取り組んでいきたい。

Q. 鮎貝はハーモニープラザ、鮎貝小、保育園、調理場が並び教育の地域であった。若い人の定住を考えたときに教育の町というのを一つの特色にするのはどうか。

A. (教育長) 若い人の定住には人材が育ち、町で活躍できることが必要だと思う。国際的な視野を持ち大きく羽ばたける子どもたち、誰一人取り残すことなく力を発揮し社会で活躍できる子どもたちを育成していきたい。支援員、ALT、ICTを活用し、力を育てていきたい。今後とも教育に関心を持っていただきご支援ご理解いただきたい。

A. (町長) 中高生のオーストラリア短期留学を行っており、今年は中国から子どもたちが来る予定。国際的な交流をしながら人材を育て、イベントの展開に繋げたい。

Q. 2年前の8月の豪雨で鮎貝地区でも避難勧告となった。1部2部ポンプ庫、防災倉庫(神明アパート北側)が避難区域だった。今後も区域内となる可能性あるが、移転を考えている

のかお聞きしたい。

A. (総務課長) ポンプ庫の移設は検討を進める必要があると思うが、具体的なスケジュールは決まっていない。水防倉庫は移転の検討を進めている。